

鳴門教育大学附属中学校
学校関係者評価報告書

(平成26年度)

平成27年3月

学校関係者評価委員会

目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について | |
| 1. はじめに | 2 |
| 2. 評価の目的 | 2 |
| 3. 評価のスケジュール | 2 |
| 4. 学校関係者評価委員会委員 | 3 |
| 5. 本評価報告書の内容 | 3 |
| 6. 本評価報告書の公表 | 3 |
| II 学校関係者評価結果 | |
| 1. 総合評価 | 4 |
| 2. 優れた点 | 4 |
| 3. 改善を要する点 | 5 |
| 4. 保護者対象学校評価アンケート分析 | 5 |
| 5. 全国学力・学習状況調査分析 | 7 |
| III 評価項目ごとの評価 | |
| 1. 社会に生きてはたらく思考力等の育成 | 8 |
| 2. いじめの撲滅 | 9 |
| 参考：学校の現況及び目的 | 11 |

I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

1. はじめに

本報告書は、保護者、学校評議員、大学教員、地元の企業経営者で構成された学校関係者評価委員会が、鳴門教育大学附属中学校の教育活動の観察や校長等との意見交換等を通じて、附属中学校の自己評価の結果について学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

2. 評価の目的

学校評価（自己評価）の目的は、

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること
 - ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること
 - ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること
- である。このような学校評価（自己評価）に対する学校関係者評価は、

- ① 自己評価の客観性・透明性を高めること
- ② 学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たること

をめざして実施されるものである。

※ 参考 文部科学省（2010）「学校評価ガイドライン〔平成22年改訂〕」

3. 評価のスケジュール

| 時 期 | 内 容 |
|---------|--------------------------------|
| 26年 7月 | 第1回学校関係者評価委員会（委員長の選出，評価項目等の確認） |
| 26年 9月 | 文化祭参観，校長との意見交換 |
| 26年 11月 | オープンスクール参観，校長との意見交換 |
| 27年 3月 | 第2回学校関係者評価委員会（評価報告書のまとめ） |

4. 学校関係者評価委員会委員

○ は委員長（平成 27 年 3 月現在）

| | |
|---------|---|
| 中山 誠 | 元保護者会会長 元全国附属学校PTA連合会総務委員長 |
| 手束 直胤 | 元附属中学校学校評議員 本校卒業生 |
| ○ 阿形 恒秀 | 現鳴門教育大学教授 元大阪府立布施高等学校校長 元大阪府教育委員会事務局教育振興室高校改革課首席指導主事 |
| 稲木 紀彦 | 現附属中学校学校評議員 元保護者会会長 (株)トクジム代表取締役社長 |

5. 本評価報告書の内容

「Ⅱ 学校関係者評価結果」では、評価項目 1「社会に生きてはたらく思考力等の育成」及び評価項目 2「いじめの撲滅」におけるすべての観点の内容を総合的に判断し、

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

の 4 段階評価で記述している。また、学校の目的に照らして重要な位置付けにあると考えられる取組状況を考慮した上で、評価項目の観点ごとに主な「優れた点」「改善を要する点」を抽出し、上記結果と併せて記述している。さらに、保護者を対象とした「学校評価アンケート」調査結果についても記述している。

「Ⅲ 評価項目ごとの評価」においても、評価項目ごとに、同様に、

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

の 4 段階評価で記述し、評価結果の根拠・理由を示している。

なお、「参考」として、自己評価書に掲載されている「学校の現況及び目的」を転載した。

6. 本評価報告書の公表

本報告者は、本評価報告書を鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ（<http://www.naruto-u.ac.jp/schools/06/004.html>）への掲載により、広く社会に公表する。

Ⅱ 学校関係者評価結果

1. 総合評価

鳴門教育大学附属中学校学校関係者評価委員会は、評価項目1「社会に生きてはたらく思考力等の育成」及び評価項目2「いじめの撲滅」の内容を総合的に判断し、4段階評価中の「**A 十分達成されている**」と評価する。

この評価に至った根拠については、「Ⅲ 評価項目ごとの評価」の欄に詳細に報告しているのですが、ここでは、評価項目1・評価項目2に係る主な「優れた点」「改善を要する点」をまとめ、達成度を総括する。

2. 優れた点

(1) 評価項目1「社会に生きてはたらく思考力等の育成」

生徒の「社会に生きてはたらく思考力等の育成」のために、思考力等に係る概念の整理、授業改善、生徒主体の学習活動導入、ICT活用の推進に学校を挙げて取り組み、全国学力・学習状況調査における平均正答率が、主として「知識」に関する問題(A)、主として「活用」に関する問題(B)の双方共に全国国立平均よりも高い結果となるなど、着実に成果を上げている。

① 保護者を対象とした学校評価アンケートでは、肯定的回答（「よく当てはまる」「当てはまる」の合計）の割合が

「先生は楽しい授業となるよう工夫している」… 94.1%

「先生は生徒が考えたい課題を設定している」… 90.7%

「先生は実験・実習・実技を充実させている」… 95.6%

となっているように、学校の取組は保護者に理解・支持されている。

② NIE (Newspaper in Education) を積極的に推進し、「徳島未来構想—模擬県議会を開こう—」等の学習指導方法を取り入れ、社会問題を自分の問題として受け止めよりよい解決策を見いだしていく力を育て、また、この学習活動が新聞で報道され、附属中学校における思考力等の育成の取組の意義が地域にも発信されている。

③ 教育活動でのICT活用については、学校評価アンケートでも

「先生はプロジェクター等のICT機器を活用している」… 87.7%

となっているように、授業における教員のICT活用がさらに推進され、思考力等の育成に結びついている。

(2) 評価項目2「いじめの撲滅」

生徒とのきめ細かな信頼関係構築、Q-Uによる生徒・学級の実態把握などの取組によって、生徒からの申告で8件のいじめ事例が解決し、また、生活アンケートにおいてもいじめ行為の訴えが減少するなど、学校のいじめ防止対策は着実に成果を上げている。

① 保護者を対象とした学校評価アンケートでは、肯定的回答（「よく当てはまる」「当てはまる」の合計）の割合が

「先生は、生徒の考えをまとめたり、発表したり、生徒同士で協議したりする学習を多く取り入れている」… 95.8%

「生徒は互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している」… 88.5%

「生徒は楽しい学校生活を送っている」… 94.4%

となっているように、授業におけるコミュニケーション力を高める工夫、アサーショントレーニングの導入等の学校の取組は保護者に理解・支持されている。

② 学校評価アンケートで

「家庭で相手の立場に配慮した言動を指導している」… 94.1%

「保護者は本校の学校いじめ方針を理解している」… 84.1%

となっているように、いじめ撲滅の学校の取組は、保護者・家庭との緊密な連携の下で推進されている。

3. 改善を要する点

(1) 評価項目1「社会に生きてはたらく思考力等の育成」

全国学力・学習状況調査から、附属中学校の生徒が確かな学力を獲得していることがうかがえるが、「すべ」を活用した学習指導方法及び教材・教具等の開発が、どのように学力育成につながっているのかについて、より精緻な研究・分析を進め、さらなる授業改善につなげていくことを期待したい。また、授業におけるICT活用は大きな成果を上げているので、タブレットの台数確保や無線LANの性能向上等、さらなる環境整備を工夫されたい。

(2) 評価項目2「いじめの撲滅」

人と人が出会いかかわりあうためには、ある意味で何らかのもめごとや摩擦は避けることができないものであり、いじめ撲滅はどこまでも目標とする「理想」であって、学校には、人間関係におけるトラブルやつまづきなどの「現実」を不断の努力で的確に把握し生徒・保護者と共に考え解決していくことが求められる。したがって、附属中学校が基本的な視点としている「必ずいじめはある」という認識は極めて重要で、今年度の成果に甘んじることなく、諸調査、生徒との信頼関係構築、生徒の人権感覚やコミュニケーション力の育成などの取組を、今後も継続してきめ細かく展開されたい。

4. 保護者対象学校評価アンケート分析

平成27年2月3日～10日に実施された、附属中学校の平成26年度の重点目標

① 社会に生きてはたらく思考力等の育成（9項目）

② いじめの撲滅（19項目）

関する保護者対象学校評価アンケート（有効回答者数408人）の結果を総括する。

アンケートの集計結果は、6ページに掲載している。各欄の下段の（ ）内の数値は昨年度の調査結果である。肯定的回答は「よく当てはまる」「当てはまる」の計、否定的回答は「当てはまらない」「全く当てはまらない」の計を示している。

調査にあたっては、保護者に子どもと話し合った上での回答を依頼しているが、全ての調査項目で肯定的回答が80%を超えており、生徒・保護者とも、本年度の重点目標を概ね達成できていると評価していることがうかがえる。特徴的なものを下記に紹介する。

| 質問項目 | | よく当てはまる | 当てはまる | 当てはまらない | 全く当てはまらない | 無答 | 肯定的回答 | 否定的回答 |
|-------------------|--|------------------|------------------|------------------|----------------|----------------|------------------|------------------|
| 社会に生きてはたらく思考力等の育成 | 先生は楽しい授業となるよう工夫している | 35.5% (32.2%) | 58.6% (59.3%) | 4.7% (8.0%) | 0.7% (0.2%) | 0.5% (0.2%) | 94.1% (91.5%) | 5.4% (8.2%) |
| | 先生は生徒が考えたいくなる課題を設定している | 28.2% | 62.5% | 7.8% | 0.7% | 0.7% | 90.7% | 8.6% |
| | 先生はプロジェクター等のICT機器を活用している | 37.3% | 50.5% | 11.0% | 1.0% | 0.2% | 87.7% | 12.0% |
| | 先生は実験・実習・実技を充実させている | 36.5% | 59.1% | 3.4% | 0.5% | 0.5% | 95.6% | 3.9% |
| | 先生は一人一人の生徒の学習状況を理解しようとしている | 26.7% | 62.0% | 10.0% | 1.2% | 0.0% | 88.7% | 11.3% |
| | 先生は生徒からの質問や相談に適切に対応している | 35.8% (35.8%) | 56.4% (57.1%) | 5.9% (6.5%) | 1.0% (0.5%) | 1.0% (0.0%) | 92.2% (93.0%) | 6.9% (7.0%) |
| | 生徒は自ら学ぼうという意欲をもっている | 28.4% (32.7%) | 59.3% (59.1%) | 10.5% (7.0%) | 1.2% (1.2%) | 0.5% (0.0%) | 87.7% (91.8%) | 11.8% (8.2%) |
| | 生徒は新聞記事やニュース報道に興味をもっている | 25.7% | 58.1% | 14.2% | 1.2% | 0.7% | 83.8% | 15.4% |
| | 家族で新聞記事やニュースをもとに会話をしている | 30.4% | 54.7% | 14.0% | 0.5% | 0.5% | 85.0% | 14.5% |
| いじめの撲滅 | 先生の言葉遣いやマナー、電話などで対応はよい | 52.5% (55.0%) | 43.4% (41.6%) | 3.2% (2.2%) | 0.7% (0.5%) | 0.2% (0.7%) | 95.8% (96.6%) | 3.9% (2.7%) |
| | 先生は部活動等の指導に関わっている | 50.2% (37.5%) | 45.8% (55.9%) | 3.2% (5.6%) | 0.7% (0.7%) | 0.0% (0.2%) | 96.1% (93.5%) | 3.9% (6.3%) |
| | 先生は始業前に教室にいる | 46.8% (40.4%) | 46.1% (50.8%) | 5.4% (8.2%) | 0.5% (0.2%) | 1.2% (0.2%) | 92.9% (91.3%) | 5.9% (8.5%) |
| | 先生は、生徒の考えをまとめたり、発表したり、生徒同士で協議したりする学習を多く取り入れている | 52.9% (47.0%) | 42.9% (47.7%) | 2.7% (5.1%) | 0.5% (0.0%) | 1.0% (0.2%) | 95.8% (94.7%) | 3.2% (5.1%) |
| | 生徒は互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している | 22.3% (20.8%) | 66.2% (67.6%) | 9.3% (10.7%) | 1.5% (0.7%) | 0.7% (0.2%) | 88.5% (88.4%) | 10.8% (11.4%) |
| | 生徒はあいさつができています | 37.7% (31.5%) | 54.2% (60.8%) | 7.4% (6.5%) | 0.5% (0.7%) | 0.2% (0.5%) | 91.9% (92.3%) | 7.8% (7.3%) |
| | 生徒は服装や身なりがきちんとしている | 40.2% (39.0%) | 55.9% (57.4%) | 3.4% (2.7%) | 0.2% (0.2%) | 0.2% (0.7%) | 96.1% (96.4%) | 3.7% (2.9%) |
| | 生徒は交通ルールやきまりを守っている | 21.8% (20.3%) | 60.3% (58.8%) | 15.9% (19.4%) | 1.5% (1.5%) | 0.5% (0.0%) | 82.1% (79.2%) | 17.4% (20.8%) |
| | 生徒は楽しい学校生活を送っている | 47.3% (50.6%) | 47.1% (45.0%) | 4.4% (4.1%) | 0.7% (0.2%) | 0.5% (0.0%) | 94.4% (95.6%) | 5.1% (4.4%) |
| | 学校は落ち着いて学習に取り組める雰囲気がある | 38.2% (41.4%) | 51.0% (51.1%) | 9.1% (7.0%) | 1.0% (0.5%) | 0.7% (0.0%) | 89.2% (92.5%) | 10.0% (7.5%) |
| | 学校は保護者が先生に相談できる雰囲気がある | 27.5% (26.4%) | 58.6% (59.1%) | 11.8% (12.8%) | 2.0% (1.5%) | 0.2% (0.2%) | 86.0% (85.5%) | 13.7% (14.3%) |
| | 学校は生徒が先生に相談できる雰囲気がある | 25.5% | 58.3% | 13.7% | 2.0% | 0.5% | 83.8% | 15.7% |
| | 学校は、教師と生徒、生徒相互の人間関係が円滑である | 28.4% (24.9%) | 59.6% (64.2%) | 10.0% (10.2%) | 1.5% (0.7%) | 0.5% (0.0%) | 88.0% (89.1%) | 11.5% (10.9%) |
| | 家庭で相手の立場に配慮した言動を指導している | 35.5% (31.0%) | 58.6% (63.4%) | 4.9% (4.6%) | 0.7% (0.0%) | 0.2% (1.0%) | 94.1% (94.4%) | 5.6% (4.6%) |
| | 家庭で携帯電話等を使用するルールを決めている | 40.9% | 43.1% | 12.5% | 3.2% | 0.2% | 84.1% | 15.7% |
| | 自分の子どもは朝学校が始まる5分前には登校している | 59.8% (60.5%) | 28.4% (30.0%) | 9.1% (6.8%) | 2.5% (1.9%) | 0.2% (0.7%) | 88.2% (90.6%) | 11.5% (8.7%) |
| | 自分の子どもは家庭で学校の様子を話している | 40.9% (37.8%) | 42.6% (42.4%) | 14.0% (16.7%) | 2.0% (2.9%) | 0.5% (0.2%) | 83.6% (80.1%) | 15.9% (19.6%) |
| | 自分の子どもは整理・整頓、掃除など、家事をしている | 15.4% | 40.7% | 33.1% | 10.8% | 0.0% | 56.1% | 43.9% |
| | 保護者は本校の学校いじめ防止基本方針を理解している | 22.1% | 62.0% | 13.2% | 2.7% | 0.0% | 84.1% | 15.9% |

① 社会に生きてはたらく思考力等の育成

「先生は楽しい授業となるよう工夫している」… 肯定的回答 94.1%

「先生は生徒が考えたい課題を設定している」… 肯定的回答 90.7%

「先生はプロジェクター等の ICT 機器を活用している」… 肯定的回答 87.7%

「生徒は自ら学ぼうという意欲をもっている」… 肯定的回答 87.7%

「生徒は新聞記事やニュース報道に興味をもっている」… 肯定的回答 83.8%

② いじめの撲滅

「生徒は互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している」… 肯定的回答 88.5%

「生徒は楽しい学校生活を送っている」… 肯定的回答 94.4%

「学校は、教師と生徒、生徒相互の人間関係が円滑である」… 肯定的回答 88.0%

「家庭で相手の立場に配慮した言動を指導している」… 肯定的回答 94.1%

「保護者は本校の学校いじめ防止基本方針を理解している」… 肯定的回答 84.1%

5. 全国学力・学習状況調査分析

平成 26 年度の全国学力・学習状況調査の結果では、国語・数学のいずれにおいても、「主として『知識』に関する問題（A）」「主として『活用』に関する問題（B）」ともに、鳴門教育大学附属中学校の平均正答率は、全国国立中学校の平均正答率を上回っており、学力育成の成果があがっていることがわかる。また、相対的に平均正答率が低かった問題に関連する能力を伸ばすための授業を考案し実施するなど、学校は全国学力・学習状況調査の結果を有効に活用して、授業改善・学力伸長に取り組んでいる。

Ⅲ 評価項目ごとの評価

1. 社会に生きてはたらく思考力等の育成

評価項目 1 社会に生きてはたらく思考力等の育成

<目標>

複雑で解決が困難な問題を、習得した知識と技能を活用して、思考し、判断し、仲間と協働して解決できる力を育成する。そのために、思考を促すための方法である「すべ」を習得させる。また、こうした授業のための学習指導方法及び教材・教具等を開発する。

【評価結果】

4段階評価中の「**A 十分達成されている**」と評価する。

【評価結果の根拠・理由】

以下に示したように、すべての授業において思考力等を育む教育実践を展開したことにより、「知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視し『生きる力』を育む」という学習指導要領の理念を的確に具現化しており、大いに評価できる。

観点 1－1 「すべ」を活用した学習指導方法及び教材・教具等の開発

平成 23 年度から継続して文部科学省国立教育政策研究所の「教育課程研究指定校事業」を受託し、言語活動を充実させて思考力・判断力・表現力を育成する授業の実践研究に取り組み、以下の成果を上げている。

- ① 生徒が課題解決に至るまでの思考・表現課程を、6 項目の「すべ（手立て）」、11 項目の「思考の要素」、8 項目の「表現の要素」の組み合わせで構造化し、教師の指導目標を明確化している。そして、教科が連携して「すべ」を全教科の授業で実践することで、生徒の言語活動を充実させるとともに、思考の広がりや深まりを実現している。
- ② 思考力・判断力・表現力を育成する教材・教具の開発に取り組み、ホワイトボード・タブレット・デジタル教科書・カード・付箋紙などを効果的に活用して、問題解決的な学習指導（思考・表現過程の具体化）を徹底し、生徒の積極的な発言・発表、生徒どうしの協議・協働を促進している。

観点 1－2 NIE（Newspaper in Education = 学校などで新聞を教材として活用すること）の推進

NIE（Newspaper in Education）を積極的に推進し、思考力・判断力・表現力を育成する授業の実践研究に取り組み、以下の成果を上げている。

- ① 社会科の授業において、新聞記事を活用した「行政機関としての内閣のしくみや仕事」「租税の意義と役割」等についての学習を展開し、解決困難な問題に直面した時、課題を把握し、情報を集め、知識や経験と結び付けて、思考・判断し、他者と協働してよりよく解決する力を育んでいる。

- ② 総合的な学習の時間の取組として、第 19 回 NIE 全国大会徳島大会において、「徳島未来構想—模擬県議会を開こう—」と題して公開授業を行うなど、学習指導要領に示された「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」という総合的な学習の時間の目標をよく達成している。

観点 1－3 ICT 機器の効果的な活用

「情報通信技術を活用して、一斉指導による学び（一斉学習）に加え、子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）、子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）を推進」（文部科学省 2011「教育の情報化ビジョン」）するという ICT 機器の活用の意義を的確に踏まえて、思考力・判断力・表現力を育成する授業の実践研究に取り組み、以下の成果を上げている。

- ① Ipad と無線 LAN を活用したシステムによる「思考力等を育む学習指導方法」の効果検証方法を開発し、全国学力・学習状況調査の活用力を問う類似問題の解答をタブレットに記入させ、パートナーとタブレット上でその解答について協議する等の活動を通じて、「すべ」がどのように活用されたか、最初の解答と協議後の解答の比較からコミュニケーションにより思考が深まったかを検証している。
- ② 課題探究学習（2 年生総合的な学習の時間における講座選択の授業）において、Ipad を 1 人 1 台貸与し、Skype を使って外国にいるネイティブ講師とマンツーマンで会話する授業を行い、グローバルなコミュニケーション能力を育てている。
- ③ スライド式電子黒板を全ての普通教室に導入し、「動画や静止画を用いて説明する」「生徒のワークシートをクラス全員に示し意見交換を促す」「英語のデジタル教科書でネイティブ発音を繰り返し聞く」等の方法で、よくわかる授業を展開している。
- ④ 普通教室、特別教室、教科準備室等 11 室に無線 LAN アクセスポイントを設置し、すべての教室でタブレット端末を使用した授業ができる環境を整えるなど、ICT 活用を推進している。

2. いじめの撲滅

評価項目 2 いじめの撲滅

<目標>

保護者と教師、教師と生徒、生徒間において、相手の状況（思い）を踏まえた適切なコミュニケーションを行うことで信頼関係を築き、学校を安心して過ごせる場にする。

【評価結果】

4 段階評価中の「A 十分達成されている」と評価する。

【評価結果の根拠・理由】

以下に示したように、コミュニケーション力を高める活動の充実や、いじめに関する調査の実施とその結果を踏まえた取組の充実を図ることで、いじめを生まない集団づくり、いじめを早期に発見し適切な早期対応を図る体制の確立を実現しており、大いに評価できる。

観点 2-1 コミュニケーション力を高める活動の充実

各教科におけるコミュニケーション力を高める活動や、アサーションの考えを取り入れた特別活動・道徳教育を展開し、他者との対話を深める力、「意地悪な気持ち」「相手を不快にさせるような態度や言動」を抑える姿勢を育成するなど、いじめの撲滅につながる成果を上げている。

- ① 国語科「徳島の方言を全国に広めよう」、社会科「地方自治と住民参加」、数学科「図形の調べ方」など、各教科の授業実践において、開発した学習指導方法によるグループ学習、討論等を行い、生徒のコミュニケーション力を高めている。
- ② 道徳・特別活動の授業において、アサーショントレーニングを取り入れた授業実践を行い、その場に応じて、自分の気持ち、考え、信念等を正直に、率直に、相手に歩み寄りながらコミュニケーションできる力を育てている。

観点 2-2 いじめに関する調査の実施とその結果を踏まえた取組の充実 (いじめ防止基本方針の遵守)

Q-Uや生活アンケートの活用による実態把握、生徒とのきめ細かな信頼関係構築、いじめに係る保護者啓発、いじめをなくす生徒会活動、家庭や関係者との連携の強化を通じて、いじめの撲滅につながる成果を上げている。

- ① 学級経営にQ-U (QUESTIONNAIRE-UTILITIES 楽しい学校生活を送るためのアンケート) を活用して、生徒一人一人の意欲・満足感などを測定し、不登校になる可能性の高い生徒、いじめを受けている可能性の高い生徒、学校生活の意欲が低下している生徒を把握し、早期対応につなげている。
- ② 7月と2月の年2回、無記名調査「生活アンケート」を実施し、いじめの実態を調査するとともに、いじめで悩んでいるときは教師や保護者など身近にいる大人へ相談することを促すメッセージを送っている。
- ③ 休み時間の見回り、部活動指導、日記指導などさまざまな場面を利用して生徒とのコミュニケーションを図り、教員と生徒との信頼関係の構築に努め、その結果、生徒の自発的な訴えによって8件のいじめ事例を把握し、解決している。
- ④ 4月の保護者参観日における各学年懇談会において、「学校いじめ防止基本方針」「いじめのサイン発見シート」等を配布し、さらに、附属中学校のHPでいじめに関する啓発資料を掲載するなど、いじめに関する保護者啓発に取り組んでいる。
- ⑤ 附属中学校の課題は「暴力を伴わないいじめ」であるという認識に立ち、生徒会に対して、生徒一人一人が人権感覚を磨き自らいじめをなくそうとする取組が大切であるという観点で指導にあたり、その結果、生徒会は、いじめ撲滅宣言「なかよしの宣言」の発表、葉っぱ一枚一枚に友達のよいところを記述した「なかよしの木」の作成等に取り組んでいる。
- ⑥ 不登校生徒については、学級担任・学年主任が家庭連絡、家庭訪問に努め、また、本年度から新たに、管理職・スクールカウンセラーも交えた生徒指導委員会を開催しよりよい指導法を協議するなど、家庭との連携、関係者との連携の強化を図っている。

参考：学校の現況及び目的

| | |
|--|--|
| <p>1 現況</p> <p>(1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校</p> <p>(2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目 31 番地</p> <p>(3) 学級等の構成 1学年 4学級 2学年 4学級 3学年 4学級 計 12 学級</p> <p>(4) 生徒数及び教員数 (平成 26 年5月1日) 生徒数 463 人 教員数 23 人 (正規教員)</p> <p>2 目的</p> <p>(1) 目的・使命</p> <p>本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学(以下「本学」という。)における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。</p> <p>① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命</p> <p>② 地域の教育諸課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等教育関係機関からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命</p> <p>③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命</p> <p>(2) 教育目標</p> <p>本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。</p> | <p>《めざす生徒像》</p> <p>知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none">* 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒* 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒* 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒 <p>《めざす教師像》</p> <ul style="list-style-type: none">* 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師* 強い使命感、鋭い教育観をもった教師* 優れた指導力をもった教師 <p>《めざす学校像》</p> <ul style="list-style-type: none">* 創造的な知性を磨く学問学校* 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校* 強健な身体を練る体育学校* 敬和奉仕の精神に生きる人間学校 <p>(3) 平成 26 年度重点目標</p> <p>鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の2本柱から教育目標の具現化を図る。</p> <p>① 社会に生きてはたらく思考力等の育成</p> <p>② いじめの撲滅</p> <p>(4) 評価項目</p> <p>① 社会に生きてはたらく思考力等の育成</p> <ul style="list-style-type: none">* 「すべ」を活用した学習指導方法及び教材・教具等の開発* NIE(Newspaper in Education＝学校などで新聞を教材として活用すること)の推進* ICT 機器の効果的な活用 <p>② いじめの撲滅</p> <ul style="list-style-type: none">* コミュニケーション力を高める活動の充実* いじめに関する調査の実施とその結果を踏まえた取組の充実(いじめ防止基本方針の遵守) |
|--|--|